



リングリングプロジェクトを訪ねて⑧

# 「財団法人機械システム振興協会」

安心・安全な映像ライフのためのガイドラインづくりを支援

地上デジタル放送やハイビジョン映像をはじめ、近頃、映像技術はめざましい進歩を遂げている。しかし、映像には予期せぬ体調不良を起こすものがある。最近では、「映像酔い」の事例が増えているという。

映像酔いとは、揺れる画面を見続けて気持ち悪くなったりすること。大画面になるほど症状が出やすく、大型テレビが普及する中、家庭での視聴への影響も心配されている。

「財団法人機械システム振興協会」は、多様化、高度化する社会的ニーズに適用する機械情報システムに関する調査・開発研究と普及を推進。産業界、そして国民生活の向上や福祉社会の建設への貢献を目指して活動を行っている。平成18年度から20年度にかけては、「映像酔いガイドライン検証システム」の開発と実用化、国際ガイドライン

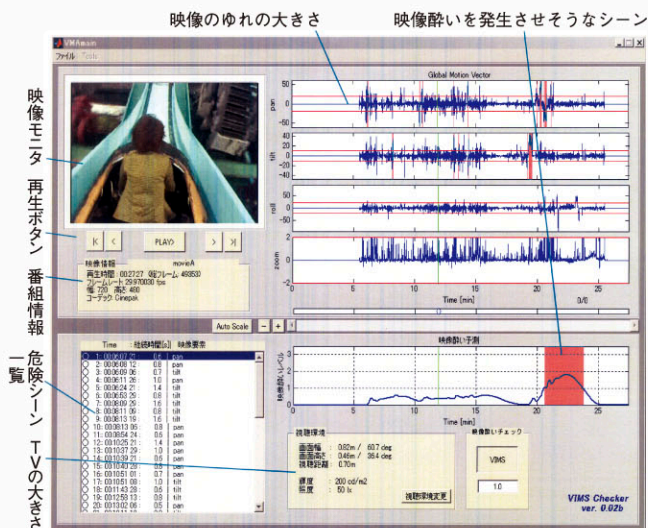


日本国内において、映像酔いによる体調不良の事例が確認されている

づくりを支援。事業に携わる、工学博士の千葉滋さんはこう説明する。「映像技術の発達はさまざまなテクニクも生み出しましたが、なかには人体に悪影響を及ぼすものもあります。そこで、不特定多数の方が見るような映像にはガイドラインを設けるべきだと考えました」

機能なども設けました」（氏家さん）映像制作側にはこの取り組みを規制だと捉えて拒絶する向きもあり、説明も積極的に向いて行つた。実際にシステムを使つてもらつたことは、理解を深める助けにもなつたとか。「みなさん、医学的によくないのであれば積極的に従うべきである、という考えを持たれます。今は映像を使った教育も多く行われており、教育現場での活用も大いに期待しています」（千葉さん）

また、国際標準化のイニシアチブを握れるかどうかは、産業を守ることにおいて大きな意味を持つ。そこで、日本主導で国際標準化することも必要不可欠な課題だつたそう。国際標準化には国の利害が絡み、特定の国の産業に打撃を与えることも可能となるからだ。「すでに国際標準化機構ISOでディスプレイが行われているのですが、科学的裏づけのあるシステムは強力なツールとなります。ガイ



↑「映像酔い評価装置」に映像を取り込むと、どのシーンが問題であるかをすぐに確認することができる。ソフトウェアは、近く、「NPO法人映像評価機構」のホームページからフリーでダウンロードできる予定  
→「映像酔い評価装置」は、放送業界やゲーム産業などプロの制作現場からアマチュアまで、幅広い利用を見込んでいる



ドラインの提案も受け入れられやすいと思います」（氏家さん）「この事業は、消費者を守ること、日本の産業の健全育成に役立つこと、双方の利益をかなえる、とてもやりがいのあるプロジェクトです。おかげさまで、世界に先駆けて映像酔いの評価装置を開発でき、国際ガイドラインのリーダーシップを取る状況ができあがっています」（千葉さん）（財）機械システム振興協会の理事、水上淳二さんはこう語った。「これは、産業界全体にかかわる悩みを解決するテーマです。しかし、負の問題は、直接の利益にはならないため、重要だとわかっていても誰も手を出せない。私どもは、その解決のきっかけをつくることも重要な役目であると感じており、JKRさんからの支援をとっても有り難く思っています」この事業は、さらなる普及と国際標準化に向けての活動が続けられており、「映像評価機構」の名称でNPO法人化も実現した。さらに、国の支援を受け、3D映像酔いに関する調査研究を行うほか、これまでの成果を受けてテーマを発展させた、複数の計画が進行しているそうである。（文・長谷川英子）



液晶テレビやプラズマテレビ、次世代ゲーム機、デジタルビデオカメラなどが広く普及する今、子どもから大人まで、映像ライフをより満喫できるようになった

ガイドラインをつくる際に重要なのは、その判断基準。そこで、科学的なデータに基づいて映像を検証する「評価装置」の開発を目指した。

「前段階として被験者に映像を見せて調べたところ、不快度は映像の速度と関係があることがわかりました」と言うのは、工学博士の氏家弘裕さん。生体影響を数値化する目途がつき、その後、改良を重ねながらシステムを構築。人が実際に感じる影響とほぼ同じ値を示す装置を完成させた。

システムは、開発当初から、広く一般での利用を想定。PC上で操作でき、取り込んだ映像をリアルタイムで解析。不快を感じる箇所やレベルなどを、グラフ等でわかりやすく示してくれる。「酔いの引き金となる部分を赤いラインで表示するほか、削除するとどう変わるかをシミュレートできる

## 競輪マークみつけた

〈名古屋市工業研究所〉

競輪の補助金で導入した「X線分析機能付高分解能電子顕微鏡」は、製品表面および断面の高倍率観察および微小部の元素分析ができ、めっき皮膜と基材金属の界面組織のナノスケールでの観察や、不良部の解析、異物の分析などに用いられます。

名古屋地区は、自動車産業に関連した機械製造、金属製品製造、プラスチック製品製造などに携わる中小企業が多く、この機器を使って観察、分析した結果はこれら企業の設計・製造現場にフィードバックされ、新製品の開発や製品管理に役立っています。

